

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： 田主丸・未来創造会議

上位関連計画にみる地域の将来
 ○地球温暖化対策推進法や政府の目標：2013年度比で2030年までに46%削減、2050年までにカーボンニュートラル達成
 ○第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22～24%、
 2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量/実質GDP）35%減。
 ○現在の市人口：303,276人、将来：299,086人/2030年、279,310人/2045年(日本の地域別将来推計人口平成30年推計)
 ○久留米市新総合計画第四次基本計画 賑わいのあるまちだと感じる住民の割合 現状：35.2%→目標：40.0%(2025年度)
 ○第三次久留米市環境基本計画 日常で環境に配慮した取組をしている住民の割合 現状：80%→目標：85%(2025年度)

②具体的な取組
 ※誰が何をするのか、主なものをお書きください。
 ●カラタチの用途開発（県苗木農協、福岡苗木研究会、久留米リサーチ・パーク、アロマなどの試作委託企業）
 ●カラタチのチップ化・輸送などの関連課題解決（県苗木農協、福岡苗木研究会、農機機器製造企業）
 ●かっぱ森J-クレジットの販売促進(久留米市、田主丸財産区、道の駅くるめ、JAにじ)
 ●グランピング、SDGsツアーなど耳納連山魅力向上(久留米市、田主丸財産区、関連観光サービス事業者)
 ●ご神事伝統行事の体験見学ツアーの開発、情報発信(久留米市、地元農泊協議会、市および県観光関連団体)

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2022年度末)	実績値 (2022年度末)	単位
環境	地域の取組み状況	植木苗木業者のSDGs検討会	0	3		回
	地域の取組み状況	地元向け森林環境学習会	0	5		回
	地域の取組み状況	地元向け神事伝統行事見学会	0	10		回
経済	カラタチ再利用からの経済効果	伐採カラタチ関連商品数	0	2		商品
	カラタチ再利用からの経済効果	商品開発の共同検討案件	2	4		案件
	地域外からの収入	ふるさと納税Jクレジット返礼	1	10		件
	地域外からの収入	森/神事ツアー田主丸外参加者	0	30		人
	財源の確保	Jクレジット付農産物販売	0	5		商品
社会	地元への愛着・誇り	Jクレジット地元購入者・団体	1	4		数
	地元への愛着・誇り	地元向け学習見学会参加者	0	50		人
	関心の高まり	当団体活動メディア登場数	3	10		回

①ありたい未来
 ※どのような地域にしたいのか、何を引き継いでいきたいのかなど、具体的にお書きください
 ●子どもの時から愛着と誇りが持てる地元になる
 → 田主丸は、南に耳納連山、北に筑後川に挟まれた美しい田園地帯。そこで営まれる農業も、米麦作の他に、柑橘系苗木の生産は全国の8割を占め、江戸時代からの植木苗木業は日本三大植木生産地に数えられ、全国に先駆け栽培し始めた巨峰を筆頭にブドウ・柿・イチゴなどの観光農園も盛ん、と極めて多彩だ。また、河童駅や河童像で有名な田主丸だが、実は弥生時代の遺跡や古墳も多く発見され、今でも農業が盛んだからこそご神事や伝統行事も非常に多く残るなど、日本の歴史文化を体感できる全国的にも貴重な地域だ。
 このように自然・農業・歴史文化に富んだ田主丸だが、自然環境や農業経営が維持できなくなれば、地域社会は成立しない。すでに高齢化・少子化や異常気象への農業の影響、農業後継者の不足などで、地域社会存続の危機は差し迫った問題だ。だからこそ環境・経済・社会を統合して地域を再生させる「地域循環共生圏」=ローカルSDGs的な解決策が求められている。
 上記のような地元の魅力や課題を学び体感できる様々なSDGsプログラムを用意し子ども時代から受講者・運営者として参加できる環境を整え、地元へ愛着や誇りを持つ大人に成長してもらう。そうやって成長した彼らや全国の若者にとって魅力的で働きやすい就職口として、6次産業化も含めた農林業や観光サービス業を中心に、様々な地域資源を活用した事業ビジネスを展開したい。また常に、地元の様々な課題や可能性を様々な属性の人が集まって話し合い実行する地域の雰囲気根付かせたい。

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2022年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	周辺環境への関心	生物多様性の認知度	27	40	2030年度	90	%
	周辺環境への関心	周辺環境の満足度	54	56	2030年度	65	%
経済	みかん苗木生産の担い手増加	福岡苗木研究会の会員数	24	25	2030年度	30	人
	植木苗木業の落ち込み抑制	田主丸緑化樹木生産者/企業数	972	960	2030年度	950	数
	植木苗木業の落ち込み抑制	田主丸緑化樹木生産面積	27,863	26,500	2030年度	25,000	a
	関係人口の増加	田主丸への観光客入込数	200,000	210,000	2030年度	500,000	人
社会	地元や全国から積極的な関与	Jクレジット購入総数	6	15	2030年度	40	数
	地元の積極的な関与	各種ツアーの地元ガイド数	0	10	2030年度	50	人
	田主丸への関心の高まり	田主丸関連メディア登場回数	78	95	2030年度	150	件
	田主丸への関心の高まり	田主丸町観光ナビ!アクセス数	24,000	30,000	2030年度	50,000	数

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

田主丸・未来創造会議が掲げる3テーマ(①みかん苗木生産に使用するカラタチの伐採不要部分の再利用、②かっぱの森J-クレジット普及活動を始めとする耳納連山の価値向上、③田主丸のご神事伝統行事の保存活用)について、上記「①ありたい未来」「②具体的な取組み」に記載した通り、伐採カラタチの商品開発に目途を立て田主丸の中心的な農産物生産者に対して将来の可能性を提示できるよう努め、同時に、地域循環共生圏に対する認知関心度を高めるための地元向け各種イベントを開催することで地元サポーターの増加を目指す。
 このような地元の盛り上がりプラットフォームの根拠として新たな事業を立ち上げ、事業を含めた様々な田主丸のSDGs的活動により、全国からの関心度を獲得していきたい。そして長期的には移住定住も含めた多くの関係人口を受け入れるに足る地元の地力を高めることを見据え長期目標を設定した。

※環境・経済・社会がどのように関係し合い、相互に高まっていくのか具体的にお書きください